

# 大名屋敷におけるサロン文化の研究

—『弘前藩庁日記』を中心に—

課題番号 14510480

平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書

平成17年 3 月

研究代表者

武 井 協 三

人間文化研究機構 国文学研究資料館 文学形成研究系 教授

# はしがき

本冊子は、独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）を受けて行った「大名屋敷におけるサロン文化の研究－『弘前藩庁日記』を中心に－」についての研究成果報告書であり、研究の成果を広く学界および社会に還元しようとするものである。

## 研究組織

研究代表者：武井 協 三（人間文化研究機構 国文学研究資料館 文学形成研究系 教授）  
研究分担者：青 木 直 己（株式会社虎屋 虎屋文庫 課長）  
研究分担者：入 口 敦 志（人間文化研究機構 国文学研究資料館 文学資源研究系 助手）  
研究分担者：大 友 一 雄（人間文化研究機構 国文学研究資料館 アーカイブズ研究系 教授）  
研究分担者：阪 口 弘 之（大阪市立大学大学院 文学研究科 教授）  
研究分担者：鈴 木 公 子（近畿大学 文芸学部 助教授）  
研究分担者：山 下 則 子（人間文化研究機構 国文学研究資料館 文学形成研究系 教授）  
研究分担者：渡 辺 憲 司（立教大学 文学部 教授）

鈴木公子は筆名「林公子」で本冊子には記載されている。

研究協力者：加 賀 佳 子  
研究協力者：金 子 健（早稲田大学大学院 文学研究科）  
研究協力者：鈴 木 博 子（大阪市立大学大学院 文学研究科）

交付決定額（配分額）	（金額単位：千円）		
	直接経費	間接経費	合 計
平成14年度	900	0	900
平成15年度	800	0	800
平成16年度	1,300	0	1,300
総 計	3,000	0	3,000

## 研究発表

- 学会誌等 武井協三「近松の芝居を楽しむ殿様」『囀』51号、平成14年8月  
鈴木博子「加賀藩前田家記録にみる元禄～享保期江戸演劇界－土佐少操活動時期・小山二郎三郎代替わりなど－」『演劇研究会会報』29号、平成15年6月  
鈴木博子「屋敷方における御出入り役者の動向－岡山藩池田家操・歌舞伎上演記事を中心に－」『歌舞伎－研究と批評－』31号、平成15年6月  
鈴木博子「江戸の屋敷方における操・歌舞伎」『都市文化研究』3号、平成16年3月
- 口頭発表 武井協三「初期歌舞伎の演技・An Acting in Early Kabuki」E A J S（ヨーロッパ日本学会）平成14年8月30日 於ワルシャワ大学
- 出版物 武井協三『江戸歌舞伎と女たち』角川書店、平成15年10月31日

研究成果による工業所有権の出願・取得状況 なし

## 目 次

はしがき・研究組織・交付決定額・研究発表

研究の目的・研究の概要..... 1

研究成果一序にかえて..... 2

研究発表・討議・資料

金子健「今治市河野美術館所蔵『歌舞伎遊楽図屏風』について」..... 5

鈴木博子「池田家・前田家記録からみた『弘前藩庁日記』の芸能記録について」..... 30

林公子「『弘前藩庁日記』の記述と「別紙／別帳」との関係について」..... 57

加賀佳子「津軽家上屋敷における芸能上演と、津軽家の人々・客の関係」（一）..... 85

加賀佳子「津軽家上屋敷における芸能上演と、津軽家の人々・客の関係」（二）.....107

渡辺憲司「『山鹿素行年譜』について」.....126

渡辺憲司「津軽家大名サロンと文芸…山鹿素行との関連を中心に」.....132

青木直己「津軽藩江戸藩邸における菓子の饗応—上菓子大成期を中心に」.....143

津軽家江戸屋敷役割分担索引..... 1

## 研究の目的

近世期の江戸の町には、諸大名の江戸屋敷が多数存在していた。大名の江戸屋敷には、当時の文化人たちが集い、一種の文化サロンが形成されていた。

弘前藩の江戸屋敷でも、しばしば歌舞伎・人形浄瑠璃の上演があり、この芸能の場には観客として、文化人が招請されている。近年学界に紹介された『弘前藩庁日記』を主たる資料とし、弘前藩邸におけるサロン文化の実態を明らかにすることが、本研究の目的である。さらに『大和守日記』など、他の藩邸記録をも視野に入れることにより、当時の大名を中心とするサロン文化全般の考察も行いたい。

また巨視的には、大名と文化人の関係を考察することにより、パトロンと文化創造の関係を明らかにし、もって我が国の文化とパトロネージのあるべき関係を解明することを目標としている。

## 研究の概要

弘前藩の江戸屋敷ではしばしば芸人たちが招請され、座敷で歌舞伎・人形浄瑠璃が上演された。この場には、山鹿素行・渋川春海など当時の著名な文化人が集って、観劇している。この弘前藩の文化サロンについて研究を実施した。資料として用いたのは、弘前市立図書館所蔵の『弘前藩庁日記』である。

弘前市立図書館においての原本調査を実施し、計7回の共同研究会を開催した。共同研究会では以下の研究発表8件と、それに基づく討議が行われた。

- ・平成14年9月25日 金子健「今治市河野美術館所蔵『歌舞伎遊楽図屏風』について」
- ・平成14年9月26日 鈴木博子「池田家・前田家記録からみた『弘前藩庁日記』の芸能記録について」
- ・平成14年11月12日 林公子「『弘前藩庁日記』の記述と「別紙／別帳」との関係について」
- ・平成15年12月8日 加賀佳子「津軽家上屋敷における芸能上演と、津軽家の人々・客の関係」(一)
- ・平成16年2月25日 加賀佳子「津軽家上屋敷における芸能上演と、津軽家の人々・客の関係」(二)
- ・平成16年2月25日 渡辺憲司「『山鹿素行年譜』について」
- ・平成16年7月18日 渡辺憲司「津軽家大名サロンと文芸…山鹿素行との関連を中心に」
- ・平成16年7月19日 青木直己「津軽藩江戸藩邸における菓子の饗応—上菓子大成期を中心に」

共同研究参加者は、これらの研究会開催にむけて、各藩の大家家記録の調査を各地の文庫・図書館において実施し、新資料の発掘を行った。また小人数による個別の研究会を開催し、新資料の翻刻、研究発表と討議のための諸調査を実施した。